



# 四国税理士会報

第414号  
2020.8.10

●発行所 / 四国税理士会  
高松市番町2-7-12  
電話 087 (823) 2515(代)

●発行人 / 清田 明弘  
●編集人 / 松岡 真澄美  
●ホームページ / <https://www.shikoku-zei.or.jp>



吉野川ハイウェイオアシス「千年格子の祭り」

撮影者 徳島支部 岩佐 誠志

## 主な記事

部・委員会だより ～広報部～

あなたの暮らしのそばにいる  
四国税理士会



ホームページのQRコードはこちら

# お国自慢

## 徳島

鍛 昌志（徳島支部）

### じんつう 「神通滝」

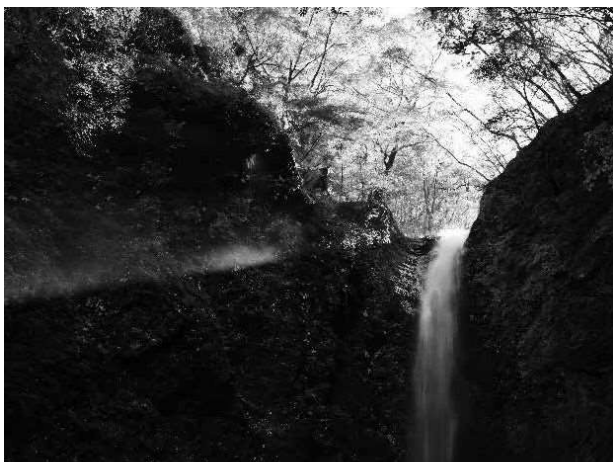
本格的な夏を迎えたこの時期に、涼を感じられる場所をご紹介します。

私が住む徳島県の神山町には、神通の滝があります。

神通の滝は、徳島駅から車で約1時間30分、駐車場からは遊歩道があり、約600m、徒歩で約15分の所にあります。遊歩道は緩やかな上り坂で、季節によって色を変える木々や鳥のさえずりなど自然を感じられます。

滝の規模としては、約30mの落差をもつ豪快な滝で、轟音を響かせており、県内でも有数の名瀑にあげられます。季節によって表情を変え、特に冬には写真のような氷瀑となることがあります。氷瀑の景色は、名前の通り神々しい姿に写ります。

名前の由来は、「阿波の伝説」（角川書店）によると、江戸幕府より阿波の国の神通の名瀑の所在を聞かれ、阿波藩主蜂須賀公は急遽藩内を探索させ、この滝を言上したという伝説があるそうです。



また、文献を調べていると、神通の滝の近くには、大正時代から運転していた神通発電所（水力発電）があったそうです。現在は稼働しておらず、跡地しか残っていません。総事業費20万円（現在の価値に直すと1億円くらい）で、発電能力は、最大出力が400kW、常時の出力は200kWと記されています。（参考文献：神山町史）



### 大学生活

重松 広美  
(松山)

私は、現在仕事をする傍ら、大学に通っています。今年の4月で2回生になりました。

夜間学部なので社会人が多いと聞いていたのですが、一学年約90名のうち社会人は10名ほど…。そして働きながら通っている方はその半数の5名ほどしかいないので、少々寂しい思いです。ただ、年齢が一回り下の方たちと話す機会は、普段生活していてほとんど無いので、これはこれで新鮮な体験だと思い直して大学に通っています。

今(令和2年6月現在)は、時勢上遠隔授業を実施しており、ほとんど大学に行くこと

はなく、毎夜メールで届く課題を解いたり、レポートを書いて送信したりするだけの日々ですが、昨年度はガイダンスが多かったので同回生と話す機会も多くありました。

仕事に追われていると、合理的な考えや損得で物事を考える癖がついてしまっていたのですが、本物(?)の大学生である子たちは「留学したい!」や「バンドしてます!」など、純粹にやりたいことや楽しいことをやっているのが微笑ましく、つい応援したい気持ちになりました(これがアイドルにはまる気持ちでしょうか…)。

ただ、大学で辛かったのが英語の授業でした。1回生では必須科目で英語の単位を取得する必要があったのですが、私は英語が昔から苦手でした。法律を学び直すために大学に通っているのに、何故英語を学ぶ必要があるのか…という子供のような言い訳をしまうほど、英語が本当に苦手です。大学では英語の教員が外国の方なので、講義中は終始何を言っているのか分かりませんでした。幸いにも隣の席の子が親切な子だったため、翻訳してもらいながら授業を乗り切り、ギリギリ単位を取ることが出来ました。

後期からはゼミも始まるので、年上だからきちんとしないとイケないという小さなプライドは捨て去り、何とか留年せずに卒業したいと思います。

## 会員相談室のご案内

各県の会員相談室をお気軽に、是非ご利用ください。8月(会報発行日以降)～10月の相談日等は下記のとおりです。

| 県  | 場所       | 相談日時  | 科目         | 担当者               |        |
|----|----------|---|------------|-------------------|--------|
| 香川 | 税理士会館2F  | 8/20(木)・10/8(木)                                     | 13時～17時    | 法人税<br>消費税<br>所得税 | 久保田 英俊 |
|    |          | 9/10(木)   |            | 資産税               | 岩倉 史明  |
| 愛媛 | 愛媛県税理士会館 | 9/4(金)・10/2(金)                                      | 13時～16時30分 | 法人税<br>消費税<br>所得税 | 稲葉 芳房  |
|    |          | 8/21(金)・9/4(金)・10/16(金)                             |            | 資産税               | 潮見 秀孝  |
|    |          | 9/17(木)・10/2(金)                                     |            |                   | 池田 康廣  |
| 徳島 | 県連事務局    | 8/21(金)・8/28(金)・9/11(金)<br>9/25(金)・10/2(金)・10/16(金) | 13時～16時    | 資産税               | 須藤 茂俊  |
| 高知 | 県連事務局    | 9/2(水)・10/7(水)                                      | 13時～16時    | 法人税<br>消費税        | 長沢 健次  |
|    |          | 8/19(水)・9/16(水)・10/21(水)                            |            | 資産税               | 門田 克也  |

※ 相談日等は変更となる場合がありますので、詳細は各県の事務局までお問い合わせください。

※ 上記相談日以外のご相談は、日本税務研究センターの会員相談室をご利用ください。  
(受付時間・平日 10:00～11:30、13:00～15:30 TEL 03-3492-6016)



日本SFの先駆者  
海野十三  
(うんのじゅうざ)  
松下 晃大  
(徳島)

今、70代、80代の方々の中には幼少期に海野十三の小説に親しまれていた方も多いのではないでしょうか？

私の散歩コースである徳島中央公園には、海野十三の文学碑があります。

その碑には、作家仲間であった江戸川乱歩の「海野十三は徳島市の生んだ優れた推理小説家科学小説家である(略)彼はまた科学小説の先駆者であった(略)この分野に昭和初期彼は早くも先鞭をつけ多くのすぐれた作品を残したのである」という海野評とともに「(略)科学にわれわれはとりつかれている、かくのごとき科学時代に科学小説がなくていいだろうか」という海野本人の言葉が記されています。

この碑をみて興味を持ち、海野十三の人と作品について調べましたので、ご紹介をいたします。

海野十三は明治30年12月に徳島市徳島本町に生まれ、早稲田大学理工科を卒業後、通信省電気試験所で無線や真空管の研究に従事しながら探偵小説家としてデビュー、次第に科学小説を書き始め、少年少女向けのSFや冒険小説を執筆し人気を呼びました。手塚治虫や松本零士などのSF漫画の大家も、子供の頃に読んだ海野作品に多大な影響を受けてい



るそうです。

現在、海野の小説はインターネットの青空文庫で読めるほか、創元推理文庫からミステリー、SF、怪奇小説を中心とした作品集が発刊されています。その中で私のお勧めは「十八時の音楽浴」という作品です。独裁者が音楽を使い人間を洗脳、管理している世界に火星からロケットが襲来し…というディストピアSF短編で、戦前にこのような大胆な作品が書かれていたということに驚かされます。

また、生まれ故郷である徳島について書いた『三人の双生児』の故郷に帰る」というエッセイには、少年時代を過ごした徳島市安宅町を30年ぶりに訪れたことの記録と当時の思い出について書かれており、本人が撮影した戦前の徳島の写真を含め、資料としても貴重なものだと思います。

徳島県立文学書道館の図書閲覧室には過去に発行された書籍もあり、貸出しはしていませんが自由に閲覧が可能です。ご興味がある方はぜひご利用ください。



税 理 士 証 票 の 提 示  
会 員 章 の 着 用  
を 励 行 し ま し ょ う